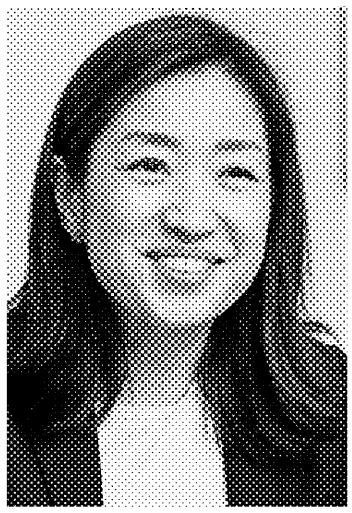
再生エネ関連事業展開加速

幅広い人材受け入れ進化

三井物産プロジェクトソリューション執行役員　皆川 聡子氏



三井物産プロジェクトソリューション（東京都港区、谷垣匡輝社長）は、2024年10月の社名変更やブランドビジョンの策定を経て太陽光や陸上風力発電に関わる新たな事業展開を進めている。時代の変化に合わせた進化には幅広い人材の活躍を促すことも重要だ。次世代事業開発本部長を務める皆川聡子執行役員に女性活躍を含めた取り組みを聞いた。

◇　◇

―社名変更によって会社の方向性などはどう変化しましたか。

「まずブランドビジョン『変わる。だから、変わらない。』を決め、私たちは社会の安心できるインフラを支えるというミッションを果たすため私たち自身が変わらなくてはいけないことを皆で納得感ある形で議論してきた。（そこに新社名という）お客さまのニーズにさまざまなソリューションを提供できる会社になっていこうという一連の流れがあったので、良い形となった」

―次世代事業開発本部ではどんな分野に取り組みますか。

「国内の太陽光、陸上風力に特化した形でビジネスを行っている。企業自身が自分でオンサイト、オフサイトPPA（電力販売契約）という形が増えてきており、対応している」

―三井物産でサステナビリティ経営推進部企画室長も務められましたが、女性活躍の面で心がけてきたことなどはありますか。

「飾らず等身大でいることを心がけている。上司や同僚、部下を含め女性として子育てをしている母親としても包み隠さず伝えている。育児と仕事を両立するとさまざまな思いがけないことも起きる。共有しつつ、葛藤の毎日でも楽しむことが大事だ。（育休など）周囲の理解が得やすい女性に比べ、男性が家庭で活躍しづらい雰囲気がないだろうか。女性の職場での活躍と男性の家庭での活躍は表裏一体だ。男性も育休を取得するならば、家庭で活躍できるよう一定の長い期間を取れると良い。抱えている悩みが共通の課題になることで全員が働きやすくなる」

―今後の展望は。

「社名やブランドビジョンの策定で議論してきても、受け入れる会社はバックグラウンドが違う人材が入ってきても、受け入れて活躍できる包容力がともに進化し続ける会社にならないといけないことだ。三井物産グループ全体にも言えるだろう。進化し続けられないといけない」

記者の目

女性社員のキャリアパス注目

三井物産プロジェクトソリューションが再生エネなど時代に対応した進化を目指す中で、人材に関わる変革は重要性を増すだろう。皆川執行役員は「女性社員の人数が少ない世代なので後輩の女性社員からどんなキャリアパスを築くのか注目されているのは意識している」と気を引き締める。女性だけでなく誰もが活躍しやすい環境作りが次世代の成長を支える基盤となる。（山岸渉）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社